

「マツハ車検 GR Supra GT4 EVO2」 トップ 3 走行も不運なトラブルに遭う

マツハ車検

PMU
RACING PADS

G72 SUPER COOLING
SYSTEM

GR Garage 熊本中央

PETRONAS
Syntium



Team Noah「マツハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、4 月 26～27 日に鈴鹿サーキット(三重県)で開催された ENEOS スーパー耐久シリーズ 2025 第 2 戦「SUZUKA 5 時間レース」に参加。特別スポーツ走行から調子が良く、予選クラス 4 位からスタートしてトップ争いを展開したが、ラジエターに穴が開くというまさかのトラブルが発生。修復に時間を要し 11 位完走という結果に終わった。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表:清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐に参加を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。2023 年は車両を GR Supra GT4 EVO にスイッチし、激戦区クラスであり国際的にも人気を集める GT4 車両による ST-Z クラスへクラス替えをした。昨季は GR Supra GT4 EVO2 を投入。今回は昨年 3 戦に参加した下垣和也が A ドライバーを担当し、B ドライバーに若手の富田自然(あるが)、C ドライバーに大分出身の森田真心(こころ)、D ドライバーに加藤正将を据えた。

今回の 5 時間耐久レースに出走した車両は、全 8 クラス計 52 台。激戦の ST-Z クラスには、中国から初参戦のチームを含め、GR スープリ、Z、ポルシェ・ケイマン、メルセデス AMG、アウディ R8 と国内外の GT4 マシン 5 車種計 12 台がエントリーした。レースウィークは 24～25 日に練習走行が実施されたが、25 日朝の走行ではクラストップを奪うなど好調な走り出しとなった。

A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争う公式予選は気温 20℃の 14 時にスタート。鈴鹿を走り込んでいた下垣が 5 位、富田がコースレコード更新の 3 位でタイム合算の結果クラス 4 位/総合 12 位。また森田と加藤も難なく基準タイムをクリアした。

27 日の決勝は晴れ/ドライで気温 22℃、路面温度 34℃という初夏の陽気となった 11 時 5 分にスタート。富田がオープニングラップで順位を一つ上げトップ争いに加わった。スタートから 40 分ほどでクラッシュした車両があり FCY(フルコースイエロー＝制限速度 50km/h で追い越しとピットイン禁止)となったが、その後も混乱は続きスタートから 1 時間 15 分が経過したジェントルマンドライバーの乗車義務時間が終わる時点まで FCY は計 4 回も導入となった。富田は 20 周目に順位をひとつ落としたが、それでもトップの見える位置を走行していた。

富田は 39 周でピットインし森田にバトンを渡した。このピット作業では給油のみでタイヤ交換は行わず森田はクラストップでコースに戻った。その数分後にこの日 5 回目の FCY が導入され、その解除後に 2 台に抜かれ 3 位へ順位を落とした。それでもトップ争いから引き離されないように走行していた森田だったが、いきなりエンジンが噴けいない状況に。52 周目には 4 位へ順位を落とし 56 周で緊急ピットイン。ここで下垣に交代しコースへ戻るが、わずか 2 周で再びピットインしガレージへ入ることになった。

車両からはクーラントが漏れておりその箇所を探し、ラジエターの交換作業は 1 時間 30 分余にわたった。勝負権は既になくなっていたが、修復後は下垣が最後までドライブし 83 周でチェッカーを受けクラス 11 位/総合 45 位という結果となった。今回も残念な結果となったが車両の調子は良く、万全の準備でシーズン最大の山場となる第 3 戦富士 24 時間(5 月 30 日～6 月 1 日)に臨む。

下垣和也「交代してすぐにコースに出ると制御が掛かっているランプが点いて全然パワーも出ないのですぐに戻りました。アンラッキーとしか言いようがありません。今回は結構勝負権がありクルマもドライバーもいい状態でしたので、いいところに行けるのかなと思っていたら、ラジエターに穴が開いていました。多分何か拾ってパンツと当たったんでしょうね。次出場を予定している岡山では頑張ります」

富田自然「序盤は 2 位に少し離されましたが徐々に追いついて、タイヤがタレてからは逆転して 2 位で次のドライバーにつなぎたかったのですが。レースウィークを通してみんなで、ああでもないこうでもない悩みながらいいクルマに仕上がって、すごくいい方向に向かっていきます。もう少しで表彰台や優勝を狙えるところに来ていると思いますし、今回はいい感じだったただけにもったいないですし悔しいです」

森田真心「周りがタイヤ交換をしている中、僕たちはタイヤ無交換で行ったので結構きついところはあったのですが、あのまま乗っている感じでは 2～3 番で下垣さんに渡して、最後は加藤さんに交代して表彰台を狙えたと思うので今日の結果は悔しいです。木金とみんなで協力し合っているいいクルマになりすごく感謝しています。去年は苦しい一年でしたが、次の富士 24 時間では勝ちにいきたいと思っています」

加藤正将「木曜からチームと合流して走り出し、決勝を想定したセットアップとデータのすり合わせやちょっとしたコーチングなど、少しはチームのお役に立てたのかなと思います。今回のレースは状況的に 3 番手には行けたのではないかと思います。最後、僕に交代する時にタイヤ無交換ということも考えていました。今回は残念な結果になりましたが、今後も乗るチャンスがあると思っていますし頑張ります」